

震災遺構（熊本県整備）



震災遺構（旧東海大学阿蘇キャンパス）

地震の記憶や経験、教訓を風化させず県内外で広く共有し、今後の災害に生かそうと「熊本地震ミュージアム」の実現に向けて取り組んでいる。

形態は広範囲に点在する震災遺構や情報発信拠点などをつないで巡る「回廊形式」で、名称は『熊本地震 記憶の回廊』

ワンピースの「麦わらの一味」 考古学者ニコ・ロビン像（令和2年度中に設置完了予定）

高野台防災公園



村営高野台団地に備蓄倉庫や耐震性貯水槽を備えた防災公園。面積は7,160㎡ 車中泊を想定で約100台の駐車スペースを設けた。中央の倉庫では毛布や保存食を保管。地下にある貯水槽は避難者500人が3日分に当る約40t貯水可能。非常時にトイレやかまどとして利用できるベンチも17脚備えている。

新阿蘇大橋展望所（整備中）

新阿蘇大橋の河陽側に交流館1棟、駐車場30台×2ヶ所を整備する。交流館は仮設住宅のみんなの家を移築再建、トイレも設置。駐車場は道路南側（北向き山側）と南阿蘇橋側に整備、道路を挟んだ駐車場を結ぶため新阿蘇大橋の下に歩道を設置。新阿蘇大橋も真下から見ることも可能。

交流施設と災害公営住宅（旧長陽西部小跡地）

住民の意思の集約や復興イベント等の実施に取り組む有志団体「すがるの里」が発足。復興弁当の提供をとおした東海大学生との交流や、視察団体等への震災体験を伝える取組等が開始されている。